

病害虫 防除だより

No. 306

平成29年4月7日

イネ苗立枯病、苗いもちの発生に注意しましょう!!

4～5月の気温は平年並みから高くなる見込みです。苗が低温や高温にあうと苗立枯病が発生しやすくなります。播種時の薬剤散布と適正な温度管理により、健苗づくりに努めましょう。また、育苗箱は必ず洗浄、消毒したのを使用しましょう。

1)育苗温度

出芽期間…30℃を超えないようにする。

育苗期間…夜間5℃以下、昼間25℃以上にならないようにする。

- 気温が高いと細菌性病害が発生しやすいので、快晴時には早めにハウスの換気を行う。
- 夜間の温度が低いと、カビによる立枯病が発生しやすいので、保温に努める。

2)灌水

- 天気の良い日の午前中にたっぷり灌水し、床土の極端な乾燥・過湿は避ける。
- 病原菌がいるので、河川や湖沼、ため池の水は使用しない。
- ムレ苗予防のため育苗初期から中期の過灌水を避ける。

3)床土

- 病原菌に好適な環境にしないよう、pHは4.5～5.1程度とし、厚播き・多肥は避ける。
- 苗いもちの伝染源となる粃殻、わらを置き床に用いたり、ハウス内に放置しない。
- 覆土が不十分な場合、苗いもちを引き起こす恐れがあるので、十分に行う。

4)薬剤防除

(※30cm×60cm×3cm)

対象	薬剤名	使用時期	使用濃度	使用量/箱*	使用回数
フザリウム菌 ピシウム菌 ムレ苗防止	タチガレン液剤	播種時及び発芽後	500～1000倍	500mL灌注	2回以内
	タチガレエースM液剤	播種時又は発芽後			1回
リゾプス菌	ダコニール1000	播種時から緑化期 但し播種14日後まで	500～1000倍	500mL灌注	2回以内
			1000～2000倍	1L灌注	
トリコデルマ菌 フザリウム菌 リゾプス菌	ダコレート水和剤	播種時から緑化期 但し、播種14日まで	400～600倍	0.5L灌注	2回以内
			800～1200倍	1L灌注	

- もみ枯細菌病、褐条病、苗立枯細菌病等の細菌性病害は、発生後の防除薬剤はない。
特に5月中旬移植用の苗は高温期の育苗になるので注意する。



ピシウム菌による
苗立枯病（ムレ苗）



フザリウム菌



苗立枯細菌病



褐条病

☆最新の農薬登録情報 (<http://www.acis.famic.go.jp/search/vt1lp301.jsp>) を確認して下さい。